

4 花壇苗の小型容器栽培におけるわい化剤の利用

ねらいと成果

花壇用苗物は、近年のガーデニングブームを背景にホームユース需要が増加すると共に、春先だけでなく周年利用されるようになってきた。これらの消費形態の変化に対応し、施設の高度利用と低価格化を図る高位生産技術として小型容器栽培がある。そこで、ビンカとパンジーの小型容器栽培におけるわい化剤処理について検討した。

その結果、わい化剤の草丈への影響は、ビンカ、パンジーともポットサイズが小さいほど大きく現れた。到花日数はビンカではいずれのポットサイズでもわい化剤処理により1～4日短くなったが、パンジーでは長くなった。処理時期については、ビンカ、パンジーとも鉢上げ2週間後処理で草姿が優れた。

内容

ビンカ：草丈および株張は、いずれのポットサイズでもわい化剤処理（ユニコナゾールP 1.25ppmを1.6ml/株散布）により抑制された。わい化効果は、ポットサイズが小さくなるほど草丈に大きく現れた。草丈と株張の比率（以下、H/W比）は鉢上げ2週間後処理が最も小さくなり、草姿のバランスが良かった。

表1 ポットサイズとわい化剤の鉢上げ後の処理時期がビンカの生育に及ぼす影響

ポットサイズと 処理時期	到花 日数	草丈 (cm)	株張 (cm)	H/W 比 ¹⁾	株重 (g)
9cmポット					
無処理	50	9.8	14.1	0.69	5.7
7日後	48	7.7	12.2	0.63	5.3
14日後	46	7.9	12.4	0.64	5.2
7.5cmポット					
無処理	50	9.3	12.0	0.78	4.4
7日後	48	6.8	10.3	0.66	4.1
14日後	50	6.8	11.3	0.61	4.1
6cmポット					
無処理	53	9.6	12.0	0.80	4.3
7日後	52	6.2	9.5	0.66	3.4
14日後	52	5.9	9.9	0.60	3.0

播種4月9日、鉢上げ5月14日

各区80%開花時に調査(表2も同じ)

1)草丈(H)と株張(W)の比率(草丈/株張)
(表2も同じ)

株重はわい化剤処理により減少したが、処理時期との関係は認められなかった。到花日数はいずれのポットサイズでもわい化剤処理により1～4日早まったが、処理時期との関係は明らかでなかった(表1)。

パンジー：草丈、株張は、いずれのポットサイズでもわい化剤処理（パクロブトラゾール5ppmを1.6ml/株散布）により抑制された。9cmポットでは2週間後の処理が最も抑制されたが、7.5cm及び6cmポットでは処理時期が早くなるほど抑制された。また、草丈におけるわい化剤の影響は、ポットサイズが小さくなるほど大きく現れた。株重もわい化剤処理により減少し、散布時期が早いほど重量減となった。到花日数はポットサイズが小さくなるにつれて増加し、また、いずれのポットサイズでも到花日数はわい化剤散布により無処理区に比べて増加し、その傾向は散布時期が早いほど大きく現れた(表2)。

普及上の注意事項

ユニコナゾールPとパクロブトラゾールは、ビンカとパンジーへの植物成長調整剤としての適用拡大が望まれる。

岩井 豊通(中央農技・園芸部)

表2 ポットサイズとわい化剤の鉢上げ後の処理時期がパンジーの生育に及ぼす影響

ポットサイズと 処理時期	到花 日数	草丈 (cm)	株張 (cm)	H/W 比 ¹⁾	株重 (g)
9cmポット					
無処理	53	11.0	16.7	0.66	22.7
7日後	75	8.0	13.6	0.58	16.3
14日後	67	7.2	13.3	0.54	15.5
7.5cmポット					
無処理	56	10.8	15.6	0.69	18.1
7日後	63	7.1	12.0	0.59	14.0
14日後	61	7.9	13.0	0.61	15.4
6cmポット					
無処理	57	10.6	14.5	0.73	12.9
7日後	74	6.7	10.3	0.65	9.9
14日後	56	7.5	11.5	0.65	11.5

播種7月22日、鉢上げ9月1日